

# 日本医史学雑誌 第三十八卷第三号 目次

## 原 著

衛生学者坪井次郎の経歴と業績……………泉 彪之助……………三

清水耕一小伝——とくにその著『新撰看護學 附精神病看護學』の位置づけ——……………岡田 靖雄……………三五

『仁助咄』にみられる医学……………浜田 善利……………三七

## ノ ー ト

合田求吾の『紅毛医言』について……………長与 健夫……………三九

## 資 料

「因伯における牛痘接種の初め」補遺——原田永寿備忘録——……………森 納……………一〇三

池田文書の研究(七)……………池田文書研究会……………一〇九

## 追 悼

関根正雄先生の逝去を悼む……………古川 明……………一三三

## 記 事

消 息…………………………一三四

例会記録…………………………一三四

例会抄録…………………………一三五

## 紹 介

杉立義一著『医心方の伝来』	蒲原	宏	三七
森納著『医人奇人―因伯の医師たち・夜話―』	岸本	頼子	三六
日本医学会医学用語管理委員会篇『日本医学会・医学用語辞典・英和』	三輪	卓爾	三〇
谷津三雄・森山徳長・本間邦則共訳、マルヴィン・イ・リング原著『図説 齒科医学の歴史』	蒲原	宏	三一
奥沢康正著『京の民間医療信仰』	杉立	義一	三二
会員通信	中山	沃	三三

＜本号の表紙絵＞

解 体 約 図

表紙の解剖図は杉田玄白が『解体新書』を世に問う前に、その予告編として出した『解体約図』の1枚である。それは解説を含めて5枚からなる宣伝用のパンフレットであるが、『解体新書』より約1年半前の安永2年正月に出た。

これを出した事情を玄白は『蘭学事始』のなかで「さて、右の如く、一通りの訳書が出来たれども、その頃は蘭説ということ少しにても聞き及び聞き知れる人絶えてなく、世に公にせし後は、漢説のみ主張する人は、その精粗を弁ぜず、これ胡説なりと驚き怪しみて、見る人もなかるべしと思ひ、先ず解体約図というものを開板して世に示せり」と述べている。